



N K C

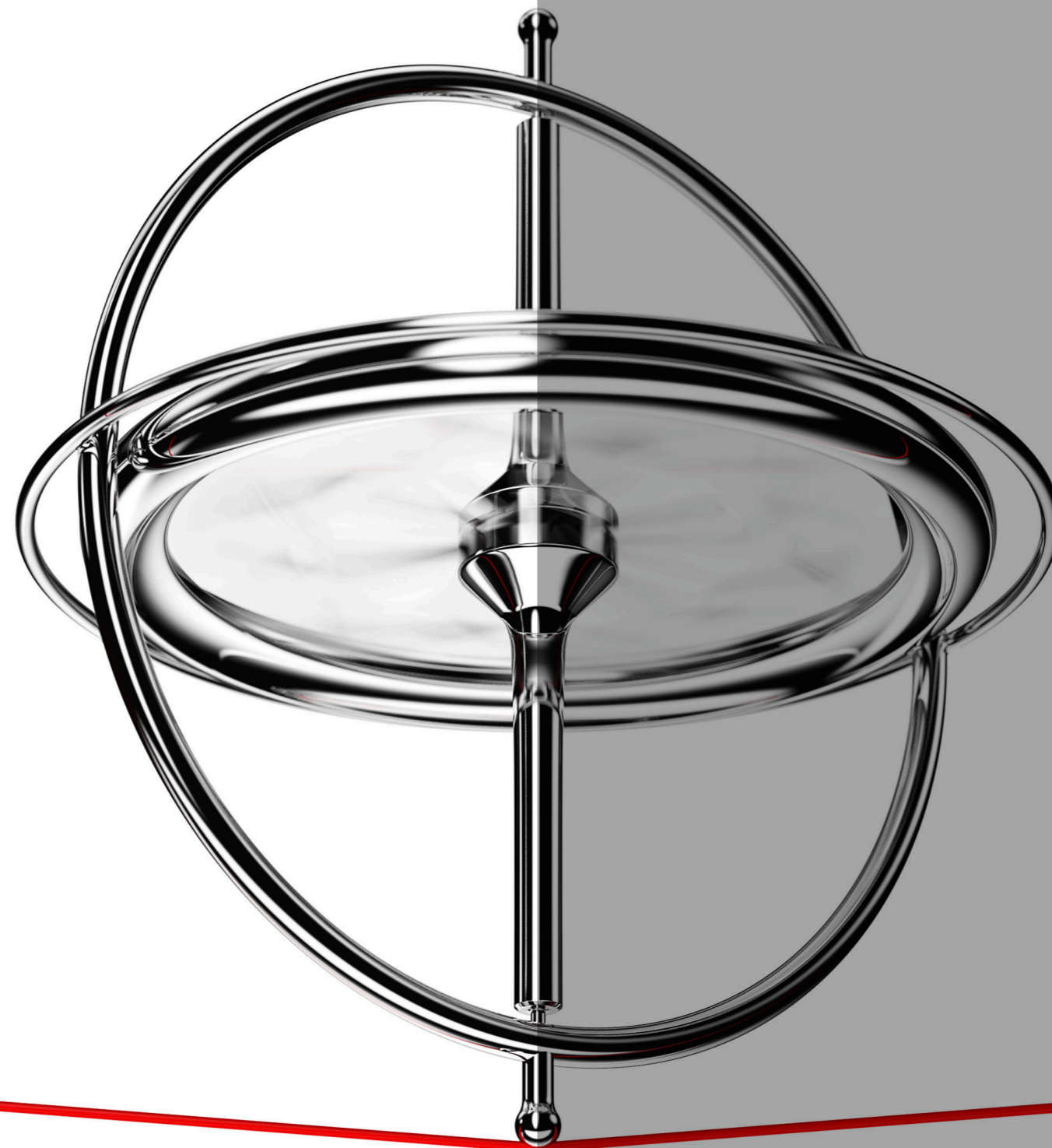
Nakanishi Metal Works Co., Ltd.



Let's Get Rolling

NKC Report 2019

Let's Get Rolling



Contents

トップメッセージ		03
ミッション & ビジョン		05
NKCの歴史		06
<hr/>		
スポットライト 01	軸受事業部	07
	ダイバーシティ	09
スポットライト 02	輸送機事業部	11
	インクルージョン	13
スポットライト 03	特機事業部	15
	ネクスト NKC	17
<hr/>		
レポート: 地域社会とともに		19
レポート: 従業員とともに		21
レポート: 地球環境とともに		23
レポート: お客様・ステークホルダーの皆様とともに		25
<hr/>		
NKCの拠点一覧		27
編集後記		29

Top Message

常に、お客様第一と 持続可能な社会への貢献を目指して

今、あらゆる分野において、産業の構造が非常に大きなスケールと速いスピードで変化しています。

製造業においても、常に変化の必要性に迫られてきましたが、刻々と変わる社会情勢とお客様のニーズ、そして持続可能な社会への積極的な貢献に向け、更に柔軟かつ迅速な対応と将来へ向けての確固たる展望を併せ持つことが必要不可欠です。責任あるメーカーとして既存事業やイノベティブな新規事業へ前向きに取り組むとともに、社会的責任のある企業として積極的に社会への貢献を続け、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様への期待に応えていかなければなりません。

こうした背景のもと、NKCグループは“すべての社員が誇りを持ち常に改革を目指す”という考えを示した「NKCグループビジョン」を企業理念として、社会の課題解決を目的とした事業活動に注力するとともに持続可能な社会づくりに貢献してまいりました。これからも私どもはその姿勢を強く貫き、ステークホルダーの皆様とともに歩みを進める所存です。

NKCグループのCSR活動とその理念

NKCグループは、事業活動を通じてとらえた社会課題の解消に向け、自らの社会的な責任を果たすべく積極的にCSR活動を展開してきました。企業理念の「NKCグループビジョン」、倫理規定である「NKCグループ企業行動憲章」と社員の行動原則「NKCスタンダード」のもと、これからも私どもは事業活動とCSR活動を推進します。

ダイバーシティと人財への取り組み

ダイバーシティ経営や人財を大切に事業経営は、責任ある企業として重要な取り組みです。NKCグループでも、10年ほど前から「ワークライフバランス」を重視した施策を実施しています。

多様な人財が存分に能力を発揮して事業に貢献するため、ゆとりのある働き方で生活全体の満足度を上げ、仕事のモチベーションアップやイノベーションにつなげる。そうした考えでこの取り組みをはじめ、以前より注力してきた女性の活躍推進やダイバーシティ経営とともに社員に広く認知されるようになりました。また、若い人財にも大変期待しています。若い人たちは仕事や知識の吸収力や応用力が強く、好奇心旺盛で経験や勤に頼ることがありません。日本では人口減少や市場の縮小など様々なことが課題とされていますが、世界は可能性で満ちています。ですから若い人財には夢を持って将来に臨んでもらいたく思いますし、もちろん経験豊かな世代の社員も、前向きに自己研鑽を続けてほしいと思います。

未来、その先の時代に向けて

各国の市場を見ると経済は世界的にドラスティックな動きを続け、あらゆる分野・業界において皆が厳しい競争に身を置き、互いに切磋琢磨していることがわかります。

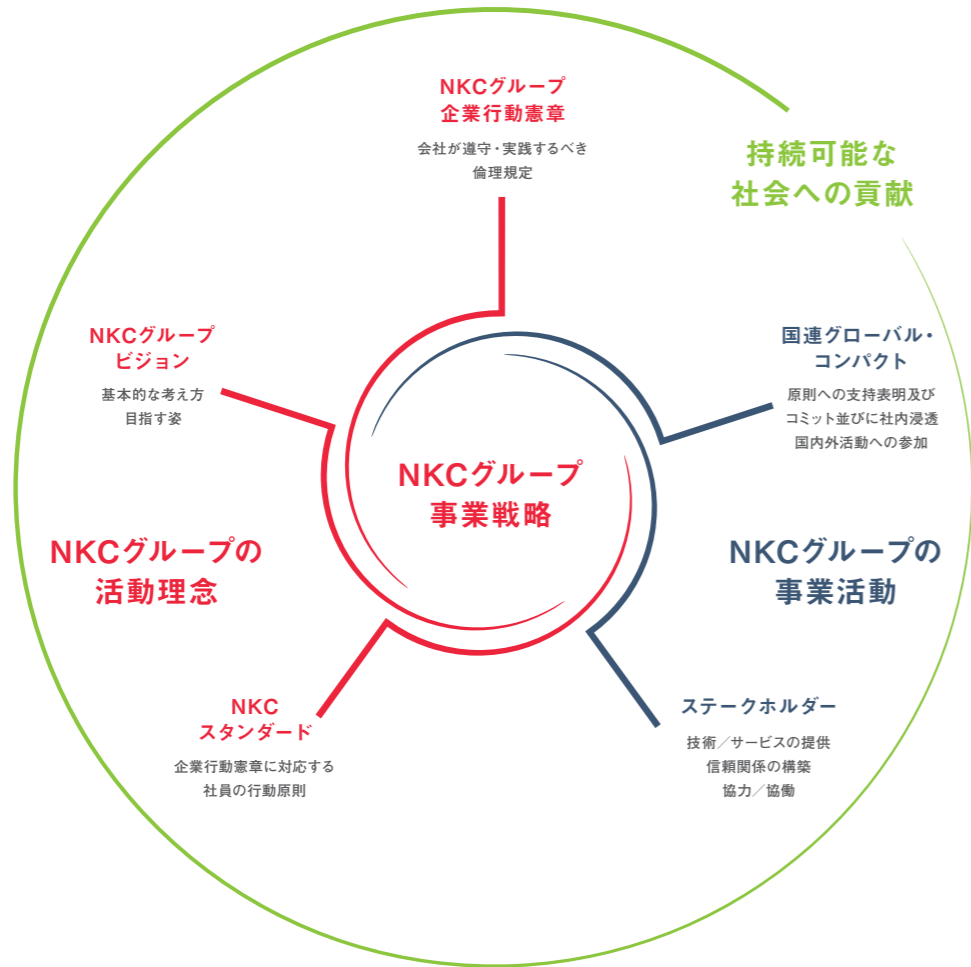
製造業においても、いずれの企業ともにR&Dやイノベーションなどによる新たな挑戦を続けていますが、たとえば自動車産業でも“100年に一度”といわれる変革期を迎えた現在ほど、チャレンジの必要性に満ちた時代はなかったでしょう。こうした中、弊社では、イノベーションによる生産の変革やグローバル化によるマーケットの開拓、発電・農業・ライフリビングなどの新規分野への参入など、着実に事業の裾野を広げています。こうした事業の活性化を通じ、企業としての責任を十分に果たしつつ誰もが活躍できる持続可能な社会への創造に向け、NKCグループはすべての従業員、お客様、サプライヤーの皆様、そして地域の方々とともに、これからも事業活動やCSR活動、社会貢献活動を進めてまいります。

中西 竜雄 Tatsuo Nakanishi
代表取締役社長



Mission & Vision

NKCグループは、ベアリング・リテーナーやコンベア・システム、住宅部品など長い歴史の初期から続く事業に加え、近年は新規事業への取り組みも積極的に行っています。社会の著しい変化に対応しながら、皆様のご要望に応えるべく、常に革新を続けていきます。



NKCグループビジョン

- NKCは、社員が社員であることに誇りを持ち続け、常に革新する企業を目指す

NKCグループ企業行動憲章

- 基本的使命: 優良で安全な製品・サービスの提供
- 社会的規範の遵守: 法令遵守・公正競争・適正取引の徹底
- 情報公開及び情報の取扱い: 透明性の高い情報公開と適正な情報管理
- 人権尊重: 人権の尊重と人権侵害行為の予防
- 就業環境の整備: 安全かつ健全で働きやすい職場環境の提供
- 環境対応: 積極的な環境活動と環境問題への予防性確保
- 社会貢献: 社会的課題の解決へ向けた積極的な取り組み
- 反社会的勢力との対決: 反社会的勢力及び団体との関係遮断を徹底
- 企業倫理の徹底: 実効性のある社内体制整備と企業倫理の徹底
- 問題解決: 問題の原因究明・再発防止・情報公開・説明責任遂行

NKCスタンダード

- ものづくり(サービスを含む)を通して社会全体に貢献します
- 各国の法令を遵守し、誠実な事業活動を行います
- あらゆる情報の重要性を認識し、適切に取り扱います
- すべての人々の人権を尊重し、侵害行為に関わりません
- 安全で快適な職場環境の維持向上に努めます
- 環境保全・環境負荷低減に積極的に取り組み持続可能な社会を作ります
- 良き企業市民として地域社会の文化的・経済的な発展に貢献します
- 反社会的勢力との関係遮断を徹底します
- 経営トップが率先して倫理観の維持向上に努めます
- 問題の発生を未然に防止し、発生時には迅速かつ厳格に対処します



地球規模の課題を考える

NKCグループは、グローバルに事業を展開する企業として、日本国内だけでなく国際社会においても積極的に貢献していきたいと考えます。その一つとして、2015年4月、企業が社会の一員として行動することを促す国連の取り組み(国連グローバル・コンパクト/ UNGC)に参加しました。これを機に、国連が求める人権や環境への配慮などに関する行動原則を実践することで企業としての責任を果たしていきます。

History

1924年の創業以来、社会の著しい変化に対応しながら事業を拡大させてきました。企画・開発・設計・製造などのあらゆる場面でお客さまを第一に考える企業文化を定着させ、世界各地のお客さまから支持していただけるよう、グループ一同、事業活動に取り組んでいます。また、事業活動を通じて環境への配慮や地域社会への貢献なども積極的に進め、持続可能な社会への貢献とともに成長する企業を目指しています。

1924
大正13年



中西製作所の社名で創業、リテーナーの生産開始

1945
昭和20年

中西金属工業株式会社に社名変更

1952
昭和27年

コンベアの生産開始

1960
昭和35年



三重工場を設立

1961
昭和36年



大阪工場を設立

1965
昭和40年



サッシ用戸車の生産開始

1973
昭和48年



滋賀工場を設立

1980
昭和55年



アメリカに初進出、輸送機工場を設立

1984
昭和59年



創業60周年に名張工場を設立

1988
昭和63年



アメリカに輸送機工場を設立

1997
平成9年



ASEANに初進出、フィリピンに輸送機工場を設立

2003
平成15年



中国に特機工場を設立

2005
平成17年



中国に輸送機工場を設立

2005
平成17年



中国に輸送機工場を設立

2011
平成23年



欧州に初進出、スウェーデンに輸送機工場を設立

Spotlight 01 軸受事業部

NKCを支える3つの事業部、軸受・輸送機・特機。この特集では、各事業部を統括するエグゼクティブがそれぞれの事業や展望、期待などを語ります。



NKC創業以来、社会や科学の発展とともに数多くのベアリング関連製品を製造・開発し、現在ではこの分野における「世界のマーケットリーダー」として存在感を示す軸受事業部。主要製品であるベアリングリテーナーは直径3mmから3mまで数千種が生産され、自動車や

鉄道車両などあらゆる分野で重要な役割を果たしています。また、培った技術に応用した自動車関連製品や工作機器関連製品などの精密複合製品の開発を通じて、これからの産業や社会により貢献することを目指しています。



産業界をリードするベアリングテクノロジー

軸受事業部

あらゆる産業の根幹を支える“部品事業”と“部品パワー”

上地 通之 Michiyuki Kamiji

取締役常務執行役員 / 軸受事業部 技術開発部長 兼 技術管理部長



—— 軸受事業部のビジネスはどのようなものですか

上地：軸受事業部では、ベアリングリテーナー（機械の回転部分に使うベアリング保持器）をはじめ、自動車や精密機器、航空機など多くの分野で使われる機械部品を開発・製造・販売しています。私たちの商品はお客様からの評価・信頼も高く、特にベアリングリテーナーは世界市場で絶大な信頼を得ています。

—— 実績と信頼を誇る軸受事業部ですが、その使命はどのようなものなのでしょう

上地：私たちの事業は、いわば“部品事業”。部品はあらゆる製品をつくり、社会を根底から支えています。そこで、“部品事業”の発展こそが社会貢献に通じる軸受事業部の使命であると考えています。そして、その原動力となるのが部品事業の強みを最大限とする“部品パワー”です。

たとえば私たちの事業は、ベアリングに代表されるような多領域で不可欠とされる商品の製造を主とするため、経済動向など重大な社会の変化にも耐えうるパワーがあります。更に培ってきた生産技術力や商品開発力、知的財産力を集約し、グローバルでもトップレベルの部品をつくるパワーもあります。この“部品パワー”による参入業種の拡大やイノベーションは現在も留まることはなく、それによって私たちはあらゆる産業の根幹を永続的に支え、社会に貢献し続けることが可能となるのです。

大切なのは堅実さと革新性、そして賢明さと迅速性

—— 今、自動車産業をはじめ製造業が変革期を迎え、市場でも競争が激しさを増しています。こうした状況への対応についてお聞かせください

上地：まず、今後もベアリングなどの市場が消失することはないと考えています。いずれの業種においても基本的には必要とされるはずですから、お客様の期待に添ってビジネス展開を図っていきたいと思います。一方、大きな変革は新たな需要を生むチャンスでもあります。そこで、既存概念にとらわれない新分野への進出も積極的に検討しています。競争についてはコストや製品での差別化を常に念頭に置き、そこには先述の“部品パワー”、中でも製品開発力と生産技術力が活かされます。昨今は、特に海外勢によるコストやクオリティーでの追い上げが激しく、尽きることなく検討やアイデアを創出していかねば私たちも市場で生き残れません。そのため、積極的な製品開発とともに生産革新にも重点を置き、国内外の拠点で低コスト化や合理化を徹底的に推し進めています。

—— ご説明くださった事業は一般にはなじみが薄いように思われますが、その社会への影響とはどのようなものなのでしょう。また、それを実現する技術をどのように守っているのでしょうか

上地：たしかに、私たちの製品は最終ユーザーである方々の目には触れにくいものです。しかし、ベアリングひとつにしてもエネルギー効率に影響するなど、それぞれの製品が資源やエネルギー問題に果たす役割は大きいのです。たとえば、最近では、自動車用ハブベアリングの低トルク化を図るため、ハブシールのシールトルク^{※1}の30%低減に成功しました。こうした製品の開発は、社会に大きく貢献し広く影響を与えていると考えています。こうした大切な技術を守るのも、知的財産力

と製品開発力という“部品パワー”です。かつては、お客様の発注に基づいた生産が多かったため、私たちが特許出願をすることはまれでした。しかし、自らの努力で製品開発に注力した結果、今では特許件数が大幅に増えています。製品開発については、これは持論ですが、アイデアというのは自分にひらめいた瞬間に世界中でも何人かが同時に思いつている。その人たちも同じ環境にいるのです。ですから、出遅れずにいち早く製品を開発し、その技術を守ることが重要だと考えています。

自律型の人財への期待と、ダイバーシティの実践に向けて

—— 続いて軸受事業部の“人財”についてですが、独自の人財カラーはありますか。合わせて、人材育成への取り組みを教えてください

上地：NKCは真面目な人財が多く、それは軸受事業部でも同じです。おかげで業績は伸びて誰もが安心して働いていますが、あえて申し上げると、どのような状況にも負けないタフさと成功への信念を持つ人財がもっと増えたらと思います。育成に向けては定期的な勉強会や講習会を実施していますが、最も大切なのは、幅広い技術の経験や、工場や現場での経験でしょう。色々な職種での経験は、リーダーシップの

会得に不可欠です。そこで、技術者に関しては年に3～4回の人財ローテーション会議での検討内容に基づいて配置換えをしています。また、大きなプロジェクトなどを任せられる機会に恵まれたら、ぜひ積極的に活かしてほしいと思います。そこで得た知識と経験・実績は、お客様との課題や難題など逃げられない状況に対処しうる能力として、必ず身につきます。

—— ダイバーシティについて、現在の取り組みや考え方はどのようなものなのでしょう

上地：まず女性については、従来は比率が低かった技術系の職種でも今は増えつつあります。私たちは、優秀な人財に男女を問うことはありません。それぞれの持つ思考や価値観の多様性を踏まえ、各々の強みを活かす姿勢が大切だと考えています。一方、最近では高齢者に着目しています。今までは一般的だった60歳定年も変わり、やがて無定年時代が到来するかもしれません。人の能力には流動性と結晶性^{※2}の2つがあり、私の見解では年齢を重ねると結晶性の能力が長けてきやすい。経験と知識の量が若い人たちと断然に違うのです。したがって、これからの企業では若い人たちと高齢者の上手な活用が重要な経営要素となるでしょう。今は多くの企業が労働力不足にあり、人口減少に伴ってそれは深刻化していきます。

そうした時代に、様々な人々を積極的かつ適切に活用することはもはや不可欠であると考えています。

—— 海外進出も進んできましたが、現地スタッフの印象はいかがでしょう

上地：現在、軸受事業部は海外4カ国に工場を設けています。各拠点には素晴らしい人財がおりますが、今後も、日本からの支援と海外人財スタッフの育成を強化し、その一人ひとりが事業部の継続的な発展と次世代のNKCGループをより輝かせることを期待しています。

「皆が燃えるNKC」を願って

—— 最後にご自身の思いをお聞かせ願います

上地：まもなくNKCは創業100年を迎え、更に次の100年に向けて走り出します。その新たな時代を担う人たちが、担い手としての自負を強く持ってほしいですね。そして、“皆が燃えるNKC”となる。たとえば日本企業の成長が著しかったときのように、未知への挑戦に燃えた人たちと、それを許容した会社があって成功を勝ち取った、そうした雰囲気は最高だと思うのです。ぜひ、次の新たな100年のNKCはそのような企業であってほしいと願う次第です。

多様性と適性を“人”を活かす技術に

※1 シールトルク：ベアリングの回転中に生じるシール部の抵抗を表現したもの。シールトルクが低いほどエネルギーの損失は下がる。

※2 流動性能力・結晶性能力：流動性能力とは新しさに適応する能力のこと。一方、結晶性能力とは過去の経験が土台になる専門的な能力を指す。

Diversity

多様性を強みとするために

女性の活躍推進に向けた活動

3月8日

「国際女性デー」への賛同

NKCグループは、性別・国籍・年齢などの多様な個性を組織の強みとするダイバーシティ経営に注力しています。その一環として制度や働き方を改革し、あらゆる分野で女性の活躍推進を図る施策に多く取り組んできました。社内への広い認知に向けても、3月8日の「国際女性デー」※に連動するイベントを開催するなど、男女同権への再認識や豊かで持続可能な社会の創造に向けた女性参画の重要性を訴える取り組みを行い、意識の定着も進んでいます。これからもNKCGグループは、よりいっそうダイバーシティ経営を強化・推進してまいります。

※国際女性デー：1975年に国連が制定した国際デー。1908年に開かれたNYでの婦人参政権要求のデモが起源、女性への差別撤廃と地位向上を訴える。



— NKCGグループではダイバーシティ経営の一環として、多様な人財の積極的な活用に向けた様々な施策を行っています。そして今、その成果は着実にあらわれています。

女性社員の意識や行動のポジティブな変化が生み出す成果

NKCグループはモノづくりのメーカーであることから男性社員の比率が高く、職場や会議などで女性社員が自ら発言することにためらう場面も多く見られた。誰もが個性と能力を存分に発揮でき、NKCGグループと持続可能な社会の創造に貢献する仕組みづくりを推進し、今、特に女性社員の意識や行動のポジティブな変化という面で成果があらわれている。

主体性を持ち常に必要とされる人財になるために

たとえば、「研修でのビジネス書課題で自身の向上をテーマにした良書と出会い、それをきっかけとして自分を磨くために様々な書籍を読んでいます」というYさんは「読書で得たものが自分の一部となることを感じる日々です。以前は自信を持ってない自分でしたが、今は自身の価値を上げる努力をしています」と現在の前向きな姿勢を語り、実際その結果として業務へも良い影響があらわれている。

Mさんは、研修でのプレゼンテーション資料



作成を通じて、端的でわかりやすい表現、書式やビジュアルの工夫など“伝えること”にこれまで以上に気を配るようになった。常にビジネスメールの言葉ひとつにも“伝えること”に心を留めるなど、相手や状況に配慮したコミュニケーションを図っている。また、Oさんは「聞くだけではなく、あらゆることをとにかく考え抜くようになりました。

上司からも「会議などで末席に控えているのではなく、自ら発言してほしい。皆がOさんの意見を聞きたいのだから」と、積極的に自己発信するようにアドバイスされました」と、ビジネスの場で自分を発信する大切さを常に意識するようになった。

立場に甘んじない、そして自らが成長するリーダーを目指して

NKCグループでは、人材育成において階層ごとに着実なキャリアを積めるよう配慮しており、特に中堅以上の社員には次世代のリーダーの育成を視野に入れた施策が行われている。

次世代のリーダーとして期待されるTさんは「研修などを通じて普段は接点がない女性社員同士が集まり、皆でひとつの目標に向かって努力する中で達成する喜びを感じ、事業部を超えた仲間も増えました。また、管理職との対話カリキュラムではリーダーとしてのコミュニケーションづくりの大切さを学びました」と取り組みへの印象を喜びの表情で語った。

また、対象者に自身の思い描くリーダー像を尋ねたところ、そのひとりであるJさんは

「人を率いる立場としてリーダーとしての気概を持ちつつ謙虚であり、常に学ぶ姿勢を持ち続けたいと思います」と述べ、前述のMさんとOさんも「自分ですべてを決めずに、必ず周囲の人々の意見にも耳を傾けてチームを率い、そして自分も成長を続ける。そうしたリーダーでありたいと思います」と答えた。

更に、Kさんは「私は以前、気後れて皆の前でうまく自分を発信できないこともありましたが、様々な業務を通じて多くの人々と接し、責任ある仕事をこなすうちに、今では自然とリーダーシップが身についています。これからもチームのメンバーを大切に、常に“何が大切か”という本質を見失わないリーダーを目指します」と、これまで隠れていたスキルが発掘された喜びを力強く語った。

— このように、様々な取り組みを通して意識や考え方にポジティブな変化があらわれており、女性社員が更にリーダーシップを発揮する機会が増えることが期待されています。インタビューに応じてくれた社員たちは、

総じて周囲の意見を傾聴しつつ自らの成長とともに、リーダーシップを発揮したいという具体像を描いていました。それは、NKCGグループは可能性のある人財を備え、その活躍の場が十分に用意されていることを意味しています。私たちは、ダイバーシティ経営を積極的に推進し、これからも持続可能な社会の創造に向けて貢献し続けます。



“多様性”を活かしたキャリアの形成と次世代リーダーの育成



Spotlight 02 輸送機事業部



1952年の生産開始からNKCの輸送機事業は拡大と進化を続け、現場ごとに異なる多様な条件にも柔軟に対応し、作業環境やコスト、安全性・保安性などの向上により産業界へ貢献してきました。その事業フィールドは自動車・家電・エレクトロニクス・物流など多岐にわたり、

中でも自動車の生産ラインではNKCのシステムが世界中で稼働し、国内でも有数のシェアを誇ります。また、近年ではロボット化製品の分野にも参入しています。



物流システムの設計・開発・管理までをトータルサポート

輸送機事業部

真のグローバル展開で“創る”

「創意繁栄」のビジョンのもとに

—— まず、NKC輸送機事業部のミッションとビジョンをお聞かせください

村井：2018～22年の中期計画におけるミッションは、「蓄積された搬送・物流技術によるトータルエンジニアリングをグローバルに供給し、生産と物流における究極の省エネ・無人化を実現して社会に貢献する」と定められました。その達成に向けて、現在は「創意繁栄」というビジョンのもと活動を展開しています。

—— ビジョンに掲げられた「創意繁栄」とは、具体的にどのようなことでしょうか

村井：これは造語で、創造する意思を繁栄につなげる、つまり人やモノ、品質、サービス、そして真心をつないで新たな価値を見出し提供するという意味です。具体的なアクションとしては、16カ国(日・米・欧・アジア)にある拠点のうち中国・フィリピンを拠点とした物流総合システム企業への成長を図っており、製品の研究開発や販売がマーケティング・ベースで展開・加速されるグローバル戦略が進められています。

ローカルに根ざした、“真のグローバル化”を目指す

—— 活動拠点の海外シフトを視野におられますが、どのように進められるのでしょうか

村井：私たちは、日本の家電や自動車メーカーの海外進出に伴う設備の現地業務を受注してきましたが、設備の完成後も現地で独自の事業を展開し、それが今の海外拠点となりました。そちらへの生産シフトも進め

ていますが、それ以上に現地との長年にわたる結びつきや実績がありますから、単なる海外進出ではなく“真のグローバル化”を実現しています。

—— 現地と一体となった“真のグローバル化”について、詳しくお聞かせください

村井：ローカリゼーションという言葉の意に沿ったグローバル化です。従来は、世界的な需要を見込める製品を日本で開発して海外に提供してきましたが、現地の実情を見るとそれぞれ需要が違うことがわかってきました。そこで、その実情に応じてR&Dや製造・販売をする、つまりローカルの視点に立ったグローバル化を図っています。これは製品にかかわらず従業員やお客さまも同じで、その見極めが“真のグローバル化”の重要な課題です。

—— 日本の企業が海外でR&Dを行うというのは、とても興味深いですね

村井：将来は、日本と海外で互いに必要な成果を導入し合うというR&Dレベルでの交流も考えており、それに向けた準備も着々と進めています。ぜひ早いうちに実現したいですね。

“人”との交わりが活性化をもたらす

—— では、輸送機事業部を“人”にたとえると、どのようなイメージでしょうか

村井：輸送機事業部はよく狩猟民族(ハンター)にたとえられ、それを象徴するのが新規事業の展開です。現在、中期計画の重要課題のひとつに新規事業への注力が掲げられていますが、それは既存事業の

BtoBモデルからBtoCあるいはBtoBtoCへとターゲットを拡大する、まさに狩猟(ハンター)のような展開です。今、これに向けて組織を従来の機能別から製品やプロジェクト、目的ごとに再編を進めています。

—— そうしたビジネススタイルに求められる“人財像”について、お考えをお聞かせください

村井：職種を問わずにコミュニケーション能力が大切だと考えています。たとえば、今、盛んに進められている付加価値型の製品開発ではそのための組織や体制が必要ですし、新規事業では新たな層のお客さまとのコミュニケーションが必要です。事業の発展は、常に人との関わりが最重要であり、コミュニケーション能力に長けた人財は不可欠です。

—— 人財の活性化に向けて、どのような取り組みが行われているのでしょうか

村井：まず、事業部間の人財交流が挙げられます。たとえば今後、付加価値型の製品開発では事業部間のノウハウ共有も進み、それに伴う人財交流は人の結束アイデアの活性化に役立つでしょう。現在、事業部横断の報告会は多数ありますが、更にディスカッションの場が設けられるといいですね。また、ダイバーシティも重要なテーマとして取り組んでおり、女性の積極的な登用や社員の多国籍化など多様性を活かした人財戦略は今や不可欠です。このうち多国籍化に関してはジョブディスクリプション(職務記述書)*を導入しはじめ、将来のグローバルな人事交流にも対応しています。今、私たちは先述の中期計画にある売上や利益の目標の達成に向けて邁進して

いますが、それを支えるのは製品と人財です。私は、長年、人材育成に携わってきましたが、やはり、これほど重要な責務はないことを痛感しています。

—— 人財への強い思いは、事業の根底はコミュニケーションという先述のお考えに基づくのでしょうか

村井：私が米国に赴任したとき、現地の人と交わることで信頼を築き、社会に加わって自分の居場所を定め、現地法人の一員という自覚が良い仕事につながりました。これらは、すべて人とのコミュニケーションの上に成り立っています。それだけではありませんが、この経験からも人財によるコミュニケーションは事業の成功に欠かせないと考えるに至っています。

夢なき者に成功なし

—— ご自身で心がけてきた仕事へのスタイルなどがありましたら教えてください

村井：かつて私は設計に携わっていましたが、現場に出向くと自身の描いた図面通りになっている。たとえば設定距離を70cmとしたら本当にそうっており、これには全く感動します。でも、そこには70cmを実現するために提案する、作る、据え付ける、チェックするなど様々な人たちの思いや仕事が凝縮されています。更には、なぜ70cm

なのかという理由もわかります。こうしたひとつの仕事に携わるだけでも関わってくれた人々のことを思い、自信を持って行った理由を伝えられる。それが私の描く理想像であり、私たちが70年もの長きにわたり貫いてきた基本姿勢でもあります。またこの考え方は、様々な人と認め合うという点でダイバーシティの理念にも共通するかもしれません。

—— 最後に、事業部長から皆様にメッセージをお願いします

村井：2019年の年頭あいさつでも述べましたが、今、まさに皆さんにお伝えしたいのが吉田松陰の言葉です。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」夢を持つことはとても大事です。ですから、皆さんもぜひ夢を持って前に進んでください。

—— ありがとうございます。ちなみにご自身はどのような夢をお持ちですか

村井：現在、輸送機事業部では世界中で850人強が働いています。そのすべての人たちの顔と名前を覚えて、一人ひとりと話をして握手を交わりたい、それが私の夢です。簡単ではありませんが、ぜひ成し遂げたいと思っています。

常に適切なコミュニケーションを

*ジョブディスクリプション(職務記述書):職務のポジションや目的、責任と内容の範囲、必要なスキルなど職務を詳細に記した文書を指す。欧米企業では重要文書として一般的に用いられる。



何事にも意欲的に取り組む姿勢が、NKCグループの未来を創る

—— NKCグループの明日を担う若い世代。多くの経験を通じてあらゆる視点や価値観、知識を身につけ、それを活かしてすべてに自発的に取り組む人財へと成長することが、NKCグループの未来を創ると私たちは考えています。そのサポートとして、NKCグループでは若手社員の育成に向けた様々な機会を提供しています。

企業人へと変わる入社数年後の姿

—— 入社後数年間、若手社員は研修などで社会人としての素養を学びつつ実務に従事します。

入社後、より実践的な知識や実務と触れることで若手社員は意識を新たにしていくな。たとえばYさんの例を見ると、現職を通じてコスト意識やお客対応が重要な基本で



あることを理解し、それらも含めて全社的な職務レベルが将来的な労働力不足などで損なわれないよう、現在は省力化への取り組みにも注力している。

Oさんの場合は、社会人になってから自分の労働時間と対価を量る習慣が身につく、効率的な時間の活用をシビアに考えるようになった。そのために自身の強みを活かせるポジショニングを常に意識し、自らの収益性を向上させることに努めている。

また、生産管理の現場で全体の進行管理と各要所の状況把握・調整にあたるKさんは、経験を重ねるにつれて職務への責任も増している。今、その現状に感じるプレッシャーは大きい。しかし、それと同時に自己の成長も感じており、次のステップに向けて手応えを感じている。

それぞれの“前向き”な思い

—— 組織で様々なメンバーと協業し、成果を出すには、コミュニケーション能力も非常に重要です。

部署や役職の異なるメンバーとのコミュニケーションは、若手社員に仕事の新たな視点をもたらすきっかけとなる。それは、「他事業部を交えた研修やプロジェクトで、普段は交流がない社員とディスカッ

ションや共同作業を行うと、新たな視点や考え方に触れることができます。そして、そこから自身の仕事に活かせるような新しいアイデアを得ることが多い」というIさんの言葉にもあらわれている。

また、「参加した研修で上司の立場を考えるという課題があり、それまでの自分なりの理解や考えが覆りました。いざ課題に取り組むと、常にチームを考える立場というのは、実はとても大変だということがわかったのです」というMさんのように、立場によるコミュニケーションの違いに気づき、職場での円滑な関係の構築に意識を向けている例もある。

ワークライフバランス

—— プライベートな時間を有効に使って充実させることは、仕事にも良い影響を及ぼします。

プライベートタイムが充実することは、仕事のスキルアップや人格形成にも役立つ。その過ごし方はそれぞれであるが、「多忙であっても、所定の時間内で効率的に業務を進める方法を常に考えています。そうしてプライベートの時間も有効に使い、更に専門的な知識を身につけるための勉強をしたいと考えています」というYさんはキャリアアップに向けて活用している。

Kさんも、グローバルに事業を展開するNKCグループでのビジネスシーンに語学は必須であると考え、その力を磨いて将来の自身のキャリアアップに備えている。

一方、Iさんは、「終業後は仕事から完全に離れて、プライベートの時間を十分に楽しみます。これで気持ちがリフレッシュし、改めて通常の仕事が俯瞰できることから好循環が生まれています」と、仕事と生活にメリハリをつけることのメリットを実感している。

家族という大切な柱

—— 働く人すべてのビジネスキャリアとライフステージが、ともに充実する。それがNKCグループです。



NKCグループでは社員すべての公私にわたる充実化を図り、若手社員もその考えのもとで意欲的な姿勢を示している。たとえばOさんは、「ライフステージが変化しても仕事とプライベートを両立させ、キャリアを追求したいと思っています。それに向けては、家庭と仕事のどちらもがうまくいくよう、何事にも取り組むつもりです」と語り、Mさんも「家族と過ごす時間はかけがえがなく、とても大切にしています。仕事も責任が増えてやりがいを感じているので、更に専門的な知識を身につけて向上していきたいと思えます」と、非常に前向きな気持ちをあらわした。

—— NKCグループは、社員一人ひとりの考えや価値観を大切にしています。

若手社員は、NKCグループの発展のみならず持続可能な社会の創造へ積極的に貢献するためにも、自身に軸を持って主体的に業務へと携わることで成長することが求められています。

私たちは、社員それぞれの個性を活かし、能力を最大限に引き出すための施策をこれからも実践していきます。



Inclusion

様々な人財によるチームワークの実現

大卒新入社員の男女比*



NKCグループでは多様な個性を組織の強みとすることを目指し、様々な人財を積極的に登用してきました。たとえば、2018年度に採用した大卒新入社員の男女比は50:50*で、うち1名が外国籍です。組織内では、こうした多様な人財が性別・国籍・年齢などにとらわれずチームワークを発揮し、それぞれがスキルや経験、考え方を活かしてチャレンジできる環境づくりを進め、各人が活躍できるようなワークライフバランスにも十分な配慮を図っています。これらを事業活動の発展に向けた重要な取り組みのひとつとして推進しています。

※2018年度実績。大卒と同程度の者も含む

入社時研修

入社後、新入社員は工場研修により、NKCグループの製品や技術を現場で学びます。その後、英語能力の向上を目的としてフィリピンで語学研修を実施。現地の人々との交流も図ることで、語学に加えて異文化を学ぶ機会を提供しています。



Spotlight 03 特機事業部



特機事業部は、ベアリングリテーナーで培った技術を活かして、人々が居住環境を支えるために“なくてはならない”製品をお届けしています。扱っている製品は、国内トップシェアを誇る窓用の戸車や引き出しに使われる樹脂製ローラーなど多岐にわたり、オフィスや住宅といった

暮らしの身近なところで様々に使われています。また、近年ではそのノウハウを応用して、暮らしに彩りを添えるライフデザイン関連の製品にも力を入れています。



暮らしを支える“なくてはならない”プロダクト

特機事業部

事業の様々な“可能性”に挑む

誇るべき技術と求められる現場意識

—— 特機事業部の概要を教えてください

西垣：特機事業部は「住生活環境のソーシャルニーズに答えて快適な住まいづくりに貢献する」というスローガンのもと、居住環境に“なくてはならない”機能性のある製品をお届けしてきました。その技術力においては、設計から生産まで一貫して関わるODM※を多く受注するなど水準の高さが評価されています。

—— 具体的な事業活動と、最近のトピックをお聞かせ願えますか

西垣：私たちは、大手住宅関連企業様向け製品の設計・製造・販売を主な事業とし、そこで培った経験をもとにリノベーション事業も展開しています。近年はBtoC分野のペット向けブランド「animacolle」をスタートさせ、その初製品「Catroad+」はPet博大阪2018にも出展しました。

—— 今、事業部に感じられるのはどのようなことでしょうか

西垣：事業部の人たちはとても熱心に業務に取り組んでくれています。その一方で、モノづくりのセンスは現場で現物を見て現実を知る“三現主義”により磨かれ、それは設計や営業など現場以外の人たちにも欠かせないのですが、最近これが疎かにされることも少なくないようです。モノづくりに携わる以上はその原点に立ち、地に着いた姿勢を示さなければお客様も納得しないでしょう。このあたりの改善も含めた事業の拡大が、私に任せられた役割だと考えています。

—— 一人ひとりのパフォーマンスを高めて最適化することが、全体にとって大事なことでしょうか

西垣：そうですね。たとえば、お客様1社あたりの営業担当はせいぜい1～2名ほどですが、彼らの対応や仕事の進め方がNKCや事業部のカラーとしてとらえられて影響も及ぼすのですから、とても重要です。グループ会社でもそれは同様で、そのためには環境の改善なども個人のモチベーションの向上に有用だと思います。

グループ間の交流に“可能性”を見出す

—— グループ会社も視野にしたお考えは興味深いですね

西垣：私は1年半ほどグループ会社に出向していたのですが、そこでわかったのはお互いに関する知識が意外と少なかったということであり、技術面や営業面での交流を深めれば高め合えるのではないかと感じました。たとえば、お客様に関する情報交換やお互いの拠点を活用した相互サポートも可能ですし、両者の得意分野を学び合えば新たな製品開発や事業展開にもつながる。私の出向経験は、こうしたことに役立つと考えています。

—— グループでの交流が有効に活かされた事例をお聞かせください

西垣：たとえば板材です。近年、大阪では地元企業の倒産が増えており、ある板材の有力企業も同じ憂き目にあっていました。これを受けて板材が入手困難となった大手企業様がありましたが、私たちが板材を扱う関東のグループ会社を紹介したところ商談が成立し、取引も増えたとのこと。本事例

は特機事業部と直接的な関わりはありませんが、同グループ会社にとっての新たなビジネスチャンスとなりました。

—— NKCグループの利点を活かしたアライアンスもあるのでしょうか

西垣：今、申し上げたグループ会社は地元特産の焼物や石材の加工も得意としていますが、ある大手の住設企業様がそこに着目して、当社に製作委託をしてこられ、現在は新製品の開発にも参加するまでになりました。また、このグループ会社は専任チームやコンサルタントを抱えており、オリジナルブランドの家具も販売しています。私たちは、これらを参考にしたグループ内でのアライアンスを進めようと考えています。

士気にあふれ、俯瞰的な視野のある人財を

—— では、特機事業部の人財についていかがですか。皆様についてはどのような印象をお持ちですか

西垣：ややおとなしめな人が多いように感じます。一人ひとりはずっと、様々な良いアイデアを持っていると思いますから、もっと活発に意見を述べるなど、積極的にアピールしてもらえたら良いと思います。あるテーマを追求・検討する際には、アグレッシブさは大切でしょう。私も士気を鼓舞して、事業部の皆さんをもっと元気にしたいと思っています。

—— たとえば、どのような雰囲気をつくっていきたく思われていますか

西垣：ディスカッションなどでも立場を超えて活発に意見が飛び交い、キーワードを記した付箋紙がどんどんボードに貼られ、それをまた

皆で討議して結果を出していく。そうした全員が活発で一丸となる空気感をつくっていきたいですね。それは間違いない、今後の原動力につながると信じています。

—— 活発化を図る特機事業部に、必要な人材像とはどのようなものなのでしょう

西垣：先述のように私たちの大きな特色のひとつがODMで、設計・デザインから生産までオールインワンで手掛けられる強みがあります。ですから、今、必要なのはODMに長けた人財です。合わせて、その人財には技術や経験を重ねた眼でODM全体を一貫して理解し、提案までできる能力がほしいですね。そうした人はどうしてもベテランに集中しがちですが、今後は若い人財も登用できるよう育成を進めたいと思います。

今、立ち返るべきなのは“三現主義”

—— ここで、モノづくりに向けた事業部長の思いをお聞かせください

西垣：モノづくりの会社では先述の“三現主義”が大切なベースで、これがなければ存続もできません。私もこの考えを原点としており、現場には喜んで足を運んできました。最近では高学歴の人たちの入社も増えていますが、それに伴ってこの三現主義が希薄になったのではという危機感を覚えています。このことは、人財の育成にも大きく影響しかねません。一方、興味深かったのは中国でまったく逆の光景を目にしたことです。

—— そこで三現主義を目にされた、ということでしょうか

西垣：中国の現場で機材を設置しているとき、現地の従業員たちが人だかりとなってその様子を見ているわけです。もう、食らいつくように。日本ではそうした経験がなかったのでショックを覚え、それが今、申し上げた三現主義がないがしろにされているような危機感を募らせました。技術を吸収しようとす

る中国の人たちの貪欲さを目の当たりにして、いわゆる日本人の奥ゆかしさを少しもどかしく感じたのかもしれません。

—— ありがとうございます。それでは、最後に皆様へのメッセージをお願いいたします

西垣：私は、描いた図面の通りにモノがつくられることに大変興味がありました。現場がそれを成し遂げてくれることに、とても喜びを感じたものです。一方でお客様は扱いやすさや耐久性・安全性に強い関心を寄せていますが、それは現場が図面通りに仕上げただけでクリアする課題ではありません。したがって、私たちモノづくりに携わる者は上司や社内からだけでなく、しっかりとお客様の声を聞いてそれを自分たちのノウハウにする。そして、それを実現するためには三現主義を決して忘れてはならない。このことを、特に皆さんにお伝えしたいと思います。

西垣 晃夫 Teruo Nishigaki
執行役員 特機事業部長

すべての原点は
“三現主義”にある



※ ODM: Original Design Manufacturingの略。委託者のブランドで製品を設計・生産すること。

NEXT NKC

有志社員による自主的な社内活動

職場を超えた全社的なチームによる活動

NKCグループでは、“誇りを持って働ける会社にするため、自分たちにできることをはじめる”ことを目的とした「NEXT NKCプロジェクト」がスタートしました。これは有志社員が立ち上げたもので、参加者は事業部や部署を問いません。メンバーの主体性を何よりも重視し、その活動は月1回のミーティングと必要に応じたセミナーやイベントなどの自律的な開催を柱としています。単に日々の悩みや不満、意見を抱えたり述べたりするだけではなく、次のステージに発展させようという取り組みで、“社員の、社員による、社員のためのプロジェクト”というスローガンのもと、自らの行動力でアイデアを実現する場所づくりを目指しています。2018年度には、50名以上が参加した社外講師によるビジネスセミナー「Growth Mindset」や、30名以上の育児中の社員が参加した交流イベント「NKC保護者会」を開催し、現在はメンバー全員によりプロジェクトのミッション・ビジョン・バリュー (MVV) を策定中です。私たちは、このような活動を通じてNKCグループの新たな事業活動の礎を築いています。



社外講師セミナー開催



NKC保護者会



— NKCグループでは、社会に更なる価値を提供することを目的に、新しいビジネスに着手してきました。再生可能エネルギーや農作業の効率化、ペットと寄り添うライフスタイルなど、新規事業はこれからの社会ニーズに沿ったテーマで推進しており、各事業には今までに培ったノウハウと最新の技術が集約され、高品質の製品とサービスを提供しています。

環境製品と再生可能エネルギー事業

今、世界は地球温暖化防止に向けて、CO₂排出削減や化石燃料依存からの脱却など積極的な環境対策に取り組んでいます。こうした観点から、NKCグループでは、環境製品や再生可能エネルギー関連製品の開発を進めてきました。製品ラインナップとして、小型風力発電機及びソーラー街路灯、生ごみ処理機、蓄電池、そして家庭用HEMセットなどがありますが、これらは、お客様のご要望を十分にヒアリングした上で設計され、細心の注意を払って製造され、お客様のお手元にお届けしています。また、太陽光発電事業やバイオマス発電事業にも着手しており、計画通りの設備稼働並びに発電を実現しています。



適切な設備稼働はもとより、設備のメンテナンスや現場の安全を確保するために、定期的にNKC本社による安全監査を実施し、安定した発電と事故のない現場の維持に努めています。

農業用ロボットの開発に見る新たな試み

今、注目されている、ロボット技術やICTを活用したスマート農業、その背景には、高品質な農作物を生み出す日本の農家の重労働かつ多量な作業があります。そして、農業に携わる方々に新しい価値を提供するため、NKCグループでは農業用ロボット「agbee」を企画・開発しました。「agbee」は作業者に追従して荷物などの運搬をサポートするほか、作地における土壌の状態や収穫量の計測、それに基づく収穫量の予測など、AIの応用技術により農作業への幅広い活用が可能な、優れた農家の相棒です。また、農業分野における新たな試みとして、2018年度後半より兵庫県淡路島にイチゴ農場を開設し、その運営に携わっています。およそ6,000平米のビニールハウスで栽培していますが、徹底した温度と水分の管理により高品質なイチゴを収穫し、既に、滋賀県湖南市でハウス栽培の実績があるミニトマトと同様、お客様へ新しい価値をご提供しています。

BtoCモデルを導入した「Catroad+」

ペットは大切な家族の一員であり、良きパートナーとしてともに生活することは、最近では、



これからの社会ニーズに応じた新しい事業

普通に見られるようになりました。NKCグループでは、このようなニーズに応えるため、培ってきた製造業としてのノウハウを活用した“ペットとの暮らしの空間”を提案するブランド「animacolle」をスタート、ペット関連市場へ進出しています。「animacolle」はNKC特機事業部が主体となるBtoCブランドで、“一般生活者”というこれまでにない顧客層をターゲットとし、同事業部の主事業のひとつである住宅関連用品のノウハウを応用して製品を開発するという、事業部においては、これまでにない新たなスタイルのビジネスモデルを展開しています。現在発売中のキャットステップ（飼い猫が室内で遊ぶための製品）「Catroad+（プラス）」は、取り付けや取り替えが簡単かつ自由自在なレイアウトを組むことができる製品で、数々のペットイベントに出展されたほかインターネットの主力通販サイトでも取り扱いがはじまりました。このように、これからのライフスタイルにも目を向け、NKCグループでは新たなチャレンジを続けています。このように私たちは、「社員が社員であること



に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す」というNKCグループのビジョンのもと、新たな取り組みを積極的に行っています。これからもNKCグループは、社会や環境の変化や市場ニーズに対して、柔軟かつ的確に対応し、新たな事業活動とそれを通じた持続可能な社会の創造に向けて前進します。



SOCIETY & COMMUNITY

NKCグループの考え方

NKCグループは、現在そして未来のために様々な社会貢献活動を通じて、地域社会と良好な関係を築き、企業と社会がともに持続・発展することを目指しています。特に、地域の皆様との対話を大切に、NKCグループが持つ知識や技術、経営資源を地域社会へと還元することで、真に必要とされる社会貢献活動を展開しています。



なかに輪 キャラクター
「なかにワニ」



「なかに輪」で季節に合わせた催し物など様々な企画を実施

社会貢献活動

地域社会との良好な関係の構築

なかに輪とこども食堂

NKCグループでは、2018年8月より大阪市都島区で「こども食堂」を実施しています。そして、同年10月には多目的交流スペース「なかに輪(わ)」を開設しました。

「なかに輪 こども食堂」では、子どもたちをはじめ地域の方々にカレーライスなどを無料で提供し、子どもたち同士、あるいは子どもと保護者や大人たちとのコミュニケーションが図れる場として開放しています。

また、季節に応じた催し物など様々な企画が開催され、2019年度からは親子を対象に子どもの自己意識と主体性を育むためのコーチング教室も行われました。更に今後は、ここでの地域交流をきっかけとしたNKCグループの社員による社会貢献活動プロジェクトも発足する予定です。



地域の方々を対象とした「なかに輪 こども食堂」

全国での活動状況

国内社会貢献活動実績 **13**拠点 **128**件

NKCグループでは、長年にわたって拠点ごとの積極的な社会貢献活動に取り組んできました。2013年度からは全拠点の社会貢献活動を本社が集約し、計画的に活動を進めています。

地域の学校や子どもたちを対象とした見学の受け入れ

次世代を担う中高生や子どもたちを対象に、NKCグループでは会社見学を受け入れています。オフィスや工場、福利厚生施設の見学をはじめ、開催回ごとに社内プロジェクトの紹介やモノづくりワークショップなどのプログラムも実施しています。2018年度は社会見学や課題研究の一環として、あるいは将来の就職の検討など、様々な目的による地域の中学生や高校生の見学を受け入れました。

また、社内イベントとして地域の社員とその子どもたちを対象とした「こども参観日」も開催され、社員家族のコミュニケーションにも活用する場を提供しています。



会社見学を多数受け入れ



共生意識の醸成

地域の災害対応力向上への取り組み

防災パートナー協定を **締結**

NKCグループは、2014年より大阪市北区と防災パートナー協定を締結しています。この協定は、地域の防災・減災・災害への対応力の向上を目的として、大規模災害時に地域住民や行政機関に協力する制度で、締結時より防災グッズや医療用品の寄贈を続けてきました。2018年度は防災用タープを寄贈し、地域の防災訓練イベントにNKCで備蓄していた飲料水を提供しています。



防災用タープの寄贈により大阪市北区から感謝状をいただきました



NKC社内で備蓄していた飲料水を地域の防災訓練イベント用に提供



HUMAN RESOURCES

NKCグループの考え方

NKCグループは、「社員が社員であることに誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す」というNKCGループビジョンのもと、一人ひとりが持てる力を最大限に発揮して社会の発展へ貢献できるように、多様な人財の積極的な登用と適切な育成、そして労働環境の整備を推進しています。

また、常に公正な労使関係を維持するとともに、新たな価値の創造に向けた積極的な取り組みを、日々、グループ全体を挙げて努めています。



テレワークの推進を強化



健康啓発卓上POP

労働環境の整備

ワークライフバランスの推進

テレワークの推進を強化

NKCグループではワークライフバランスを重視した働き方を推進しており、2017年には男女とも仕事と家庭の両立が図れるよう、通勤時間の削減や業務に集中する時間の確保を目的として、在宅勤務制度を事務系拠点で本導入しました。更に2018年度からは、多様化が進む人財の経験・視点・人脈がそれぞれに築けるよう、柔軟で自律的な働き方の実現に向けてテレワークの推進を強化しています。

その取り組みとして、まず管理職を対象にテレワークの知識と有用性の理解を図る研修を行い、続いて受講者をはじめとした社員にテレワークのトライアルを実施。その後のアンケートの結果、業務内容や出張・外出などの予定に合わせて柔軟な働き方ができ、場所を変えることでのリフレッシュ感が新しい発想をもたらすことがわかりました。ちなみに、この期間中にテレワーク用スペースとして外部にサテライトオフィスを試験導入したところ、本社のクロスパークとともに積極的に活用されていたようです。

テレワークは今後も継続して推進されますが、それを通じた社員たちの仕事に臨む自律的な姿勢が広がり、加えて業務の効率化やペーパーレス化、ITリテラシーが向上することが期待されています。



管理職対象テレワーク研修

安全・健康管理・労使関係

グローバルな規模での安全意識の醸成

世界安全大会の定期開催

NKCグループでは工場の安全衛生が常に重要課題として取り組まれ、それは日本国内での浸透を進める一方で、海外の各工場にはそれぞれに活動の展開と情報共有を図ってきました。そして、その水準を向上させるには、自分たちの工場の現状に基づいた改善活動と合わせ、他工場にも目を向けた発見と学びが重要であると考えます。

そこでNKCGループでは、国内外の工場間における情報共有と関係強化を目的とした「世界安全大会」を2016年より隔年開催しています。2018年9月6～7日に開催された第2回大会では、国内外工場すべての安全管理担当者が一堂に集結。安全意識の定着・向上に向けたテーマごとの意見が活発に交わされたほか、各拠点の活動事例紹介や各工場における好事例の共有、工場見学、危険体感学習などが行われました。世界安全大会は、今後も工場間の事例共有や意識を高め合う場として引き続き開催される予定です。



労使間のコミュニケーション

原則フルタイム雇用合意にすることで

NKCグループでは社員の雇用・職場環境向上のため、労使間の適切なコミュニケーションを図る労使協議会を定期的に開催しています。2017年度には、その協議会における「定年後再雇用制度検討分科会」で同制度の労使合意が整い、定年後は従業員自らが働き方を選択できるようになりました。今後も更なるワークライフバランスの改善に努めるため、総労働時間削減を含めたES(従業員満足度)向上に向けた労使の取り組みを継続協議してまいります。

心身の健康管理

各種開催される健康イベント

NKCグループでは「健康経営」を目指して、社員の健康増進とその管理に向けた各種の取り組みを行っています。それぞれの概略は、およそ以下の通りです。

「健康づくり2018」のイベント

NKCウォーキングイベント

毎年10月の1か月間を通して、全社員を対象に自由参加で開催。オリジナルマップと万歩計が配布され、第3回を迎える2018年は1,000名以上が参加しました。

健康トリビア

全社員から健康に関する雑学を募集し、健康トリビアを作成。採用された社員には、賞品を贈呈しました。

禁煙対策を強化

社員の健康に加えて社会的な趨勢からも禁煙対策を強化。全社の敷地内から喫煙所を削減し、禁煙セミナーを開催しています。

健康啓発の卓上POP

食事・お酒・タバコ・睡眠をテーマに、それぞれの情報を掲載した卓上POPを作成。目につきやすいよう、社員食堂に設置しています。

GLOBAL ENVIRONMENT



NKCグループの考え方

NKCグループは、以前より事業活動において積極的な環境対策を実践し、すべての社員が地球環境保全を意識して業務に携わってきました。それは省エネだけに留まらず、環境事業による再生可能エネルギーの創出というかたちでも示され、こうした活動を通じて地球温暖化の防止に貢献しています。

また、地球環境保全への取り組みはNKCグループの海外生産拠点(米国、スウェーデン、フィリピン、中国)においても、各国の法的規制や地域慣習を遵守して適切かつ積極的に進められています。

環境負荷の低減、地球温暖化防止

省エネ活動

社用車への
エコカー
導入率 **98%**

NKCグループでは、国内外の職場や生産環境において地球温暖化防止に向けた省エネ活動を推進しています。たとえば省エネタイプの生産設備や空調機器、照明設備などを積極的に導入し、建物の屋根や壁面は断熱化の構造を採用しました。社用車についても、本社を含め国内生産拠点でほぼ100%のエコカー導入率を達成しています。

また、社員が身近に省エネ活動に参加できるよう環境省が提唱する「Fun to Share^{*1}」「COOL BIZ^{**2}」「WARM BIZ^{**3}」「COOL CHOICE^{**4}」にも取り組み、地球環境保全のために一人ひとりができることを実践しています。

省エネ活動

エコカードの配布

NKCグループ企業行動憲章に則り、グループ全体の基準として環境方針を定めています。この環境方針と身近な実践項目を記したNKCエコカードを全従業員に配布し、「次世代に残そうクリーンな地球」を合言葉に、環境改善活動に日々取り組んでいます。このエコカードは、英語版・ポルトガル語版にも翻訳され、外国人従業員への周知も図っています。

実践項目

1. 二酸化炭素を削減するために私は：
 - (1)使わない場所の照明を消します。
 - (2)昼休みには消灯します。
 - (3)パソコンを30分以上使わない時は電源を切るかスリープモードにします。
 - (4)冷房温度は28℃以上 暖房温度は20℃以下を目安にします。

2. 廃棄物の埋立量を削減するために私は：
 - 廃棄物を分別袋に投じて分別します。 “分ければ資源 混ぜればただのゴミ”

環境標語 “次世代に残そう クリーンな地球”

NKCエコカード

省資源活動

ゼロエミッション 継続 **12**年目

NKCグループでは、省エネ活動とともに省資源活動も全社的に取り組んでいます。各事業所や生産拠点において、廃棄物削減に向けた3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、2018年度は12年連続でゼロエミッション^{**5}を達成しました。

また、環境負荷の低減のため定期的に協力業者の皆様への環境アンケートなどを実施し、適切な環境管理活動に努めています。



資源リサイクル

廃プラスチックの
リサイクル率 **100%**

NKCグループでは、廃棄物の再資源化や適正な処理に取り組んでいます。海洋汚染をはじめとするプラスチックごみ問題は、世界中で深刻な問題となっています。NKCグループでは適切な分別や減量化及びリサイクル業者の開拓に早くから着手し、単一素材は再生材としてマテリアルリサイクルに、再使用が難しいものは、ケミカルリサイクルやRPF (Refuse Paper and Plastic Fuel)として固形燃料化し、製紙メーカーなどの燃料としてサーマルリサイクルされています。プラスチックのリサイクル率はほぼ100%を継続しています。

^{*1} Fun to Share: 低炭素社会づくりに向けた環境への取り組みを共有・発信するキャンペーン活動。宣言企業の取り組みはwebサイトで確認できる。
^{**2} COOL BIZ: 夏期の節電を目的としたビジネス用軽装の奨励活動(実施期間は5~9月)。
^{**3} WARM BIZ: COOL BIZの冬期版で、過度な暖房に頼らずに厚着などで室温20℃でも働きやすいように取り組む活動(実施期間は11~3月)。
^{**4} COOL CHOICE: 気候変動対策や温室効果ガス排出削減を家庭や職場で実践する取り組み。
^{**5} ゼロエミッション: 徹底したリサイクルにより、社会全体で廃棄物を利用しつくして最終的な廃棄物をゼロにしようとする考え方と、それに伴う活動のこと。

生物多様性保全

カーボンオフセット

2018年度までの
オフセット総量 **337**トン

NKCグループでは、職場や生産現場におけるCO₂排出量削減とともにカーボンオフセットを導入し、その総量は2017年度で281トン、2018年度には337トンに達しました。

こうしたNKCグループの取り組みは、カーボン・オフセット推進ネットワークが主催し環境省・経済産業省・農林水産省が後援する「カーボン・オフセット大賞」において、第4回と第6回の事例集に掲載されています。

NKCグループでは、これからも生物多様性保全の一環としてCO₂排出量削減に取り組んでいきます。

環境対策への評価

30年度 大阪市環境表彰 **受賞**

NKCグループは、「NKCグループ環境方針」の策定をはじめ、ISO14001取得による環境管理の徹底、CSR報告書の発行など積極的な環境活動や社会貢献への取り組みが評価され、平成30(2018)年度大阪市環境表彰を事業者の部で受賞しました。表彰理由については、長年にわたる事業所周辺の清掃活動や地域活動への積極的な参加も評価の対象とされています。



NKCの環境啓蒙活動



CUSTOMER & QUALITY CONTROL

NKCグループの考え方

品質の確保と向上は、NKCグループの製品や技術、サービスをご利用いただくお客様との大切な約束です。創業以来、私たちはそれを果たすべく、常に高品質かつ信頼ある製品や技術、サービスをすべてのお客様へお届けするために不断の努力を重ねてまいりました。それは、私たちが品質保証・管理方針に基づいた体制を構築し、各事業部と部門による製品・技術・サービスの品質維持と更なる向上への様々な取り組みとしてあらわれています。

品質管理については、グローバルに広がるお客様のあらゆるご要望にお応えするためにも、当社の国内外の生産製造拠点はもとより、協力会社やサプライヤーの皆様との協働により常に高いレベルの維持に努めています。更に、その品質基準はNKCグループ独自に設定され、競合他社には劣らないレベルでなければお客様にお届けすることはできません。私たちは、こうした自らに課した厳しさを常にクリアできるよう日々研鑽を重ねています。



品質保証・品質管理

軸受事業部

“市場最高の品質を経済的に達成しよう”をスローガンに、軸受事業部では技術本部品質保証グループと国内外の生産拠点(計7拠点)の品質保証担当部門が一丸となって、製品の品質維持・向上に努めています。

この活動により、従来の主力製品である軸受保持器をはじめ、自動車・風車・新幹線車両に向けた幅広い製品にいたるまで、国際的な品質管理規格であるISO9001^{*1}やIATF16949^{*2}に準拠したマネジメントシステムによる品質管理を、内部監査なども交えて徹底的に実施しています。また、グローバルな品質管理や品質保証体制を充実させるため、月次の品質会議や年1回のグローバル品質会議によって当事者間の情報交換で品質管理の原則を共有し、更に本品質保証グループによる国内製造拠点へ向けた段階別の研修を通じて現場での意識浸透を図っています。

軸受事業部の品質保証・管理における実績は、現在まで多くのお客様から高評価を得ています。今後も更に信頼ある製品をお客様にお届けし、その評価を維持・発展させるべく、軸受事業部はAIやIoTなど新たなテクノロジーの導入と人材の育成を推進しています。

輸送機事業部

“止まらないコンベア、止まってもすぐに復旧できるコンベア”をスローガンに、輸送機事業部は日々の品質向上と維持に努めています。輸送機事業部は国内外に3カ所の拠点を構えています。幹部による定例会議の討議結果など重要な情報は本社が統括して各拠点へ発信することでそれぞれが常に共有し、何事も迅速かつ適切に対応できる体制を整えています。

また、輸送機事業部は国内生産の拠点である滋賀工場を全世界の「マザー工場」として位置づけ品質管理の徹底を図り、一方で本社はお客様や工場・現場からのフィードバックを設計図に活かして更なる品質の向上を図るといった、両輪の関係を構築しています。



更に滋賀工場では、各部門において評価基準を定めた業務マトリクスを設定することで各社員のスキル分布図を作成し、工場独自の「マイスター制度」と併用してスキルの「見える化」に取り組んでいます。このシステムによりスキルレベルに応じた作業指導や教育が可能となり、品質の維持・向上がより確実となりました。輸送機事業部では今後もお客様から高評価をいただき、社会に貢献できる製品を生み出せるよう、以上の活動も含めて様々な施策に取り組んでいきます。

特機事業部

“市場最高の品質を経済的に達成しよう”をスローガンに、特機事業部では国内外3拠点の管理体制の構築に向けて現場の社員と一体になって取り組んでいます。品質管理については、前年度の実績やお客様からのご要望に基づいて毎年方針を決め、国内外の生産工場並びに協力工場とともに安心・安定した部品や完成品の生産に努めています。

生産工程に関しては、社員などが作業で困っていることや効率の悪い工程を自ら改善することで成果をあげ、その内容を国内外の生産拠点で共有化して水平展開を図っています。また、品質管理についてはレベル向上のために新たな方法を模索し、品質安定に向けた活動を進めています。

こうして特機事業部では、品質管理に向けた体制づくりのため、社内と社外に対する人材育成を通じた管理レベルの向上を図り、お客様からより高い評価をいただけるモノづくりを目指した活動を展開しています。今以上に高い評価をいただける『ものづくり』を目指して活動を展開中です。

*1 ISO9001:品質マネジメントシステム(QMS: Quality Management System)を確立・維持しつつ、その有効性の継続的な改善を評価する規格。

*2 IATF16949:IATF(国際自動車産業特別委員会)による、自動車産業における国際的な品質マネジメントシステム規格。

法令遵守

コンプライアンス研修

NKCグループでは、全社的にコンプライアンス意識を醸成するために、研修を通じた知識習得や事例による実践的な演習を実施しています。まず、新入社員を対象に毎年4月の入社時研修で行われるほか、2018年度には中間管理職に対し外部講師を招いて実施しました。2019年度からは、新たに新任の管理職を対象とした研修が加わり、継続してコンプライアンス意識の醸成に努めています。



新入社員研修



中間管理職向け研修

Overview of NKC

NKCグループは、1980年に米国テネシー州メンフィスにコンベア製造拠点を設立して以来、海外各地域に設計・製造・営業拠点を設け、お客様の信頼にお応える高品質の技術・製品・サービスを提供しております。

NKCグループは、国内各地に高品質・高性能な製品を確実にお届けするための拠点を設けております。優れた技術や生産システム、そして、きめ細やかなサービスで、お客様のご要望に的確にお応えいたします。

海外拠点一覧



ヨーロッパ
 ・スウェーデン
 ・イギリス
 ・ハンガリー
 ・スペイン



NKC MANUFACTURING SWEDEN AB

アジア・オセアニア
 ・日本
 ・中国
 ・フィリピン
 ・オーストラリア
 ・台湾
 ・マレーシア
 ・タイ
 ・インド
 ・インドネシア



NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORPORATION



仲西輸送設備(佛山)有限公司

北米・中南米
 ・アメリカ
 ・カナダ
 ・メキシコ

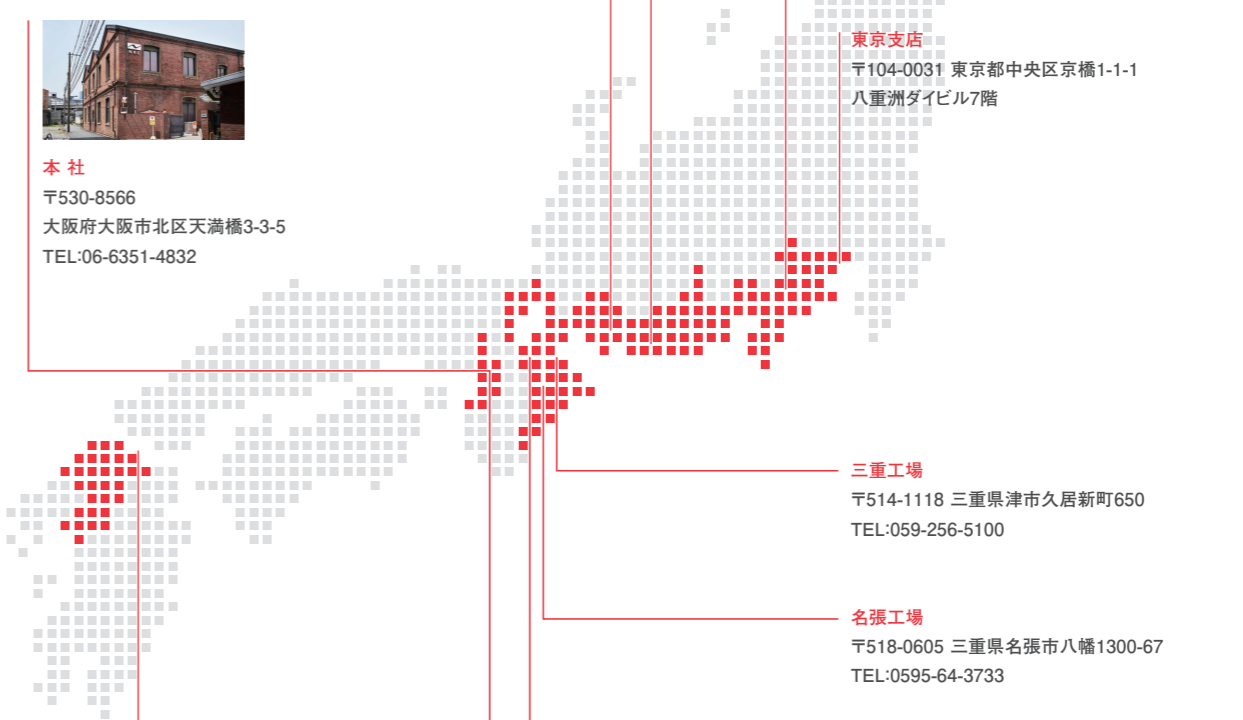


NAKANISHI MANUFACTURING CORPORATION



NKC CONVEYORS INSTALLATION CO.

国内拠点一覧



本社
 〒530-8566
 大阪府大阪市北区天満橋3-3-5
 TEL:06-6351-4832

九州出張所
 〒800-0344
 福岡県京都郡苅田町新津2-8-4
 TEL:0930-26-2425

愛知営業所／出張所
 〒472-0042
 愛知県知立市内幸町平田75番地
 営業所 TEL:0566-85-1300
 出張所 TEL:0566-85-1444

湖西出張所
 〒431-0451 静岡県湖西市白須賀宿北6233
 TEL:053-579-2323

厚木出張所
 〒243-0032 神奈川県厚木市恩名5-2-31
 TEL:046-222-4566

東京支店
 〒104-0031 東京都中央区京橋1-1-1
 八重洲ダイビル7階

三重工場
 〒514-1118 三重県津市久居新町650
 TEL:059-256-5100

名張工場
 〒518-0605 三重県名張市八幡1300-67
 TEL:0595-64-3733

滋賀工場
 〒520-3203 滋賀県湖南市日枝町4
 TEL:0748-75-2191

大阪工場
 〒572-0855 大阪府寝屋川市寝屋南1-3-1
 TEL:072-823-4151

治工具工場
 〒530-8566 大阪府大阪市北区天満橋3-3-5
 TEL:06-6351-2217

河内工場
 〒572-0066 大阪府寝屋川市仁和寺町1626
 TEL:072-829-7285



Editor's Note

NKC Report 2019の発行にあたって

2009年よりステークホルダーの皆様にお届けしてきたNKCグループのCSR報告書ですが、足掛け10年、少しずつ内容や趣を変えながら、広くNKCグループの様々な姿をお伝えする使命を果たしてきました。この度、節目の第10号を制作・発行するにあたり、今一度、NKCグループの事業活動の原点を見つめ直すとともに、これからの10年、そしてその先のNKCグループを担う人財と人財を支えるダイバーシティ・インクルージョンの在り方に、特に焦点を当てました。

社会は常に動いており、地球規模の課題も山積しています。そのような中、NKCグループは、責任ある社会の構成員として、また、社員が社員であることに誇りを持つ企業として、ステークホルダーの皆様と手を携えながら、持続可能な社会の創造に貢献してまいります。

Let's Get Rolling —さあ、始めよう—

NKCグループはこれからも、多くの皆様のご期待にかなうような活動を積極的に進めてまいります。



Let's Get Rolling

NKC Report 2019

中西金属工業株式会社 2018年—2019年 活動報告 第10号


[発行日]	2019年7月1日
[企画・監修・発行]	中西金属工業株式会社
[編集]	CSR統括部 CSR室
[編集協力・デザイン]	株式会社 大伸社ディライト
[印刷・製本]	株式会社 ライブアートブックス
[発行・発行所]	中西金属工業株式会社 〒530-8566 大阪市北区天満橋3-3-5 CSR統括部 CSR室
	www.nkc-j.co.jp



中西金属工業株式会社

www.nkc-j.co.jp

WE SUPPORT



UN GLOBAL COMPACT
コミュニケーション・オン・
プログレス

国連グローバル・コンパクトの原則の実践
状況および国連の様々な目標の支持につい
て、この**コミュニケーション・オン・プログレス**
を通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。



くるみんマーク(一つ星)
2016年4月に取得しました。



Fun to Share
環境省が推進する気候変動対策への活動
に賛同しています。